令和4年度　学校経営計画・学校評価シート

高知県立日高特別支援学校高知しんほんまち分校

《高知県の教育の基本理念》	（1）学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち （2）郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	《目指すべき姿》	学校像	○子どもたちが楽しく学べる学校 ○保護者が安心して子どもを任せられる学校 ○地域にとってなくてはならない存在の学校 ○教職員一人一人が力を発揮できる学校	目指すべき姿の実現に向けた取組の概要	◎ステップアップシートを最大限に活用した生徒の自立支援 ○ステップアップシート取扱の習熟と改善、PDCAの確立 ・ 校内の学習とデュアル実習、現場実習のPDCAの確立 ・ 社会性の学びによる生徒のソーシャルスキルの確立 ※ SST、各学習場面における学習態勢の育成、仲間との協働学習により、自己理解と他者理解を進め、人間関係の維持・形成の基本を習得する。 ○就労支援 ・ 校内、校外作業、事業所におけるデュアル実習、職場見学を通じて、ビジネスマナー、地域の事業所での就労体験を積むと同時に、現場実習に向けたレディネスを整える。 実習先の開拓。 ○地域連携・地域のイベントへの参加、地域での清掃活動、ボランティア活動の推進
《取組の方向性》	《6つの基本方針》 ①チーム学校の推進　②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進　④地域との連携・協働　⑤就学前教育の充実 ⑥学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保 《6つの基本方針に関わる横断的な取組》 ①不登校への相応的な対応　②学校における働き方改革の推進		児童生徒像	○知「確かな学力」を身に付けた生徒 ・基礎的な知識・技能の学びを通して、自ら考え、判断し、表現する力を身に付けた生徒 ○徳「豊かな心」を身に付けた生徒 ・自他を理解し、他者と協調・協働することができる力を身に付けた生徒 ○体「健やかな体」を身に付けた生徒 ・将来の社会参加(就労)に向けて、たくましく生きるための健康や体力を身に付けた生徒		

《重点取組項目》

（評価　A:目標を十分に達成　B:ほぼ目標を達成　C:やや不十分　D:改善を要する）

項目		取組ねらい 【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価 【C】	学校関係者評価	見直しのポイント 【A】
専門性の向上	就労による自立を目指す生徒の育成に必要な資質の向上	生徒一人一人の実態を把握する力及び指導力の向上を目指す。	【予測される状況】 ①デュアルシステムのノウハウを学び、作業学習等において、キャリア教育の視点を踏まえた授業づくりを行っていく必要がある。 ②心身面に課題があり、不登校傾向のある生徒本人と保護者への対応が求められる。 ③生徒が主体的な問題解決に向けたICTの活用や双方向通信を活用した授業は行えていない。 【評価指標】 ①キャリア教育の視点に基づいた、授業づくり・授業改善を行うことができたか。 ②生徒への適切な支援を保護者等と協力して行い、適切な対応力を身に付けることができたか。 ③ICT機器を活用した授業の充実及びパソコンを使った双方向通信授業の取組を進めることができたか。	①生徒のキャリア発達を促進していくために、「デュアル実習、現場実習」を通じて、企業及び事業者から、本校の作業学習等の授業における改善点について助言を受ける。 ②生徒の現状を教師間で共有し、学校全体で支援方法を検討していくとともに、SC、SSWとの連携を図りながら、生徒や家庭への継続的な対応を行う。 ③県のGIGAスクールサポーターの助言を受けながら、ChromeBookを使用した双方向通信授業の実施に向けての研修・実践に取り組む。	C	①「デュアル実習、現場実習」に取り組む前段階として、校内で進路学習や校内実習に取り組み、学習規律を意識した行動や集団づくりに注力した。 ②生徒の現状を共有し、支援方法についてSCやSSW、医療等外部機関、家庭と連携して取り組み、登校支援や学習参加には一定の成果が見られた。 ③県のGIGAスクールサポーターの支援、助言を受けて、ChromeBookを使用した授業に取り組んでいる。また、夏季休業中にGIGAスクールサポーターによる教職員対象のChromeBook研修を実施した。	①一部の生徒については「デュアル実習、現場実習」の取組を開始する。 学習規律を守る意識づくりや集団づくりに継続して取り組む。 ②安定した登校、気持ちの切り替え等を目指し、授業前に個々に応じた朝の活動（個別課題学習）を取り入れる。 SC、SSW、家庭等との連携には継続して取り組む。 ③引き続きICT機器の活用に取り組む。	B	①デュアル実習、現場実習を開始した。90%の教職員がキャリア教育の視点をもち、授業改善に取り組んだ。教科横断的な学習の計画実施に着手している。 ②朝の活動は効果があり、学習に向かう気持ちの切り替えができる生徒が増えている。 100%の教職員が保護者やSC、SSW、関係機関と連携して適切な支援につなげており、90%の教職員が情報共有して対応することができたと評価した。 ③定期的に県のGIGAスクールサポーターの支援、助言を受けて、ChromeBookを活用した双方向通信授業を行うなどICTの活用を進め、100%の教職員がICT活用を進めた。	B	・職場体験、現場実習、デュアル実習を受け入れて、生徒の成長を見ることができた。また、適切な対応について会社側の学びにもつながった。 ・朝の活動を取り入れ、生徒の気持ちの切り替えにつながったこと、また、教職員が連携して支援できたことは評価できる。 ・説明の写真を見て、子どもたちが様々な教科で学んでいることが分かった。 ・ICT機器の活用はアンケート結果にも出ているように生徒にとって良いことだと思う。	・生徒の現状を把握し、自己肯定感を高めて学ぶ意欲を育てることに力を入れる。 ・教科横断的な学習計画を進める。 ・指導と評価が一体化した授業改善を進める。 ・生徒が落ち着いて学習に向かえるよう保護者やSC、SSW、関係機関と連携を強化する。 ・ICT機器を効果的に活用した授業力を上げる。
キャリア教育の充実	職業生活に必要な力の育成	生徒一人一人の多様なニーズに対応した職業教育を系統的に実施し、将来の職業生活に必要な力を育成する。	【予測される状況】 ①生徒たちが選択できる実習・進路先の確保を図っていくとともに、保護者への十分な情報提供が必要である。 ②生徒の職業（働くこと）に向き合う知識・能力が十分ではない。 ③学校での学習実態とデュアル実習、現場実習先での実態を総合的に判断し、次の目標（ステップ）に向けた指導・支援の構築及び保護者との連携に向けた取組の充実が必要となる。 ④これからの社会生活において、グルーバルな視点をもち、諸外国等の異文化理解を深めていく必要がある。 【評価指標】 ①進路に関する情報提供（進路だよりの発行：年間3回以上）を行うとともに、新規の実習・進路先の確保（30件程度）が行えたか。 ②生徒が作業学習を通して、職業（働くこと）に関する知識・技能等の能力を身に付けることができたか。 ③指導と評価の一体化を考慮し、より実用的なステップアップシートの作成及び有効活用を進めることができたか。 ④外国人（ALT)との交流を通して、外国語や異文化に触れることで、国際理解に興味・関心をもつことができたか。	①生徒が希望する進路先を見つけることができるように情報提供を積極的に行うとともに、新規の実習・進路先の確保に取り組む（30件程度を目指す）。 ②JSP制度を活用し、外部専門家から、生徒の職業能力（知識・技能等）向上、意欲・関心の持続につながる指導・助言を受ける。 ③学級及び作業班でそれぞれの生徒の強みと課題を共有し、実習等において統一した取組を行っていく。また、実習後、事業所より得られた評価等を教師、生徒と保護者間で共通理解を図り、個々の生徒のキャリア発達のためのPDCAサイクルを回していく。 ④ALTを活用しながら国際理解教育を推進し、諸外国の文化や人々に対する関心を高め、理解を深める取組を行う。	C	①進路便りの発行（4月、7月）や夏季休業中に進路相談会議を実施し、生徒と保護者に対して情報提供を行った。 実習・進路先の確保に取り組んでいる。8月末時点で20件程度訪問。 ②学習に取り組む姿勢づくりや働くことの意義について学習を進め、協力企業への職場見学・体験を実施した。 JSP制度は活用できていない。 ③どの生徒も2つの作業種を経験し、強みと弱みが見えてきた。 まだ全員ではないが、生徒自身が目標を立て、学習に取り組む姿勢が見られるようになった。 ④外国語（英語）の授業の中で、諸外国の文化に触れ、関心をもてるよう取り組んだ。 ALTの活用はできなかった。	①進路先に関する情報提供や実習・進路先の確保に継続して取り組む。 ②JSP制度を活用し、外部専門家から指導・助言を受ける。 コロナ禍により、企業の協力を得にくい状況であり、回数は要検討。 ③校内作業と校外実習での指導と評価により、PDCAサイクルで改善を進める。 ツールとしてステップアップシートを活用するため、学習会を開催する。 ④外国語（英語）の授業の中で、国際理解教育を推進する。ALTの活用は来年度に見送る。	C	①進路については、進路相談会議や個別面談を実施し、進路便りを年間5回発行するなど情報提供に努めた。また、進路先の確保のため31件の事業所を訪問した。 ②生徒は、JSP制度により外部専門家から職業について指導・助言を受け、働く姿勢や基本的なマナーについて、また清掃時の具体的な注意点などを学んだ。100%の教職員が生徒が職業に関して知識・技能が身に付くよう実践した。 ③生徒の強みを生かせるよう、作業内容を選定して指導と評価をもとに改善しながら取り組んだ。ステップアップシートを活用するために学習会を行い、作成し活用しているが、30%の教職員が生徒の指導・改善に生かすまでには至らなかったと評価している。 ④外国語の授業内容を工夫し、体験的な学習を取り入れた。ハロウィンなどの外国の文化に触れる機会を多くもち、英語に対する苦手意識が強い生徒も興味をもって体験することができた。	C	・新設校であり、生徒はスタートに立ったところだと思う。これから学習を積み上げ経験を増やしてほしい。 ・進路先確保のため、31件の事業所を訪問したとあるが大変だったと思う。 ・ステップアップシートという生徒の力をつけるための共通ツールを活用するなど、良い取組をしている。研修会をするなど取組を進めているところでこれから成果が見えてくるのではないか。 ・国際理解教育について、自分と社会のつながりなどの様々な学習に発展させることができる。	・進路先の拡充、保護者への情報提供・情報共有に努める。 ・職業教育を系統的に実施する。 ・外部専門家や事業所、企業との連携を深める。また、指導や助言を生かし、職業に関する知識・技能を身に付ける。 ・ステップアップシートを活用して、生徒の力量アップにつなげる。 ・ALTを活用し体験的な活動を通して国際理解を図る。
学校設定項目	防災・防犯教育の充実	南海トラフ巨大地震や火災、不審者、弾道ミサイル発射への対応の見直しを行い、防災等の危機管理意識の向上を目指す。	【予測される状況】 防災・防犯マニュアルはあるが、十分な訓練は未実施となっている。 【評価指標】 防災・防犯マニュアル等を現状に合わせて見直し、実践的な訓練を実施することができたか。	①防犯・防災マニュアル等の見直しについては、外部専門家の助言をいただきながら、作成を行う。 ②学校の立地条件に対応した、より実践的な訓練を計画・実施する。	B	①防犯・防災マニュアル等を見直し、作成した。 ②地域の防災について学習し、避難訓練を実施した。	①必要に応じて、その都度見直しを行う。 ②継続して、防災学習、避難訓練に取り組む。	B	①外部専門家の助言を参考にしてマニュアルの見直しを行った。 ②総合的な探究の時間や社会、道徳の時間で教科横断的な学習を計画・実施できた。地震、火災、不審者対応訓練は、それぞれ消防署や警察署の協力、助言があった。90%の教職員はおおむね実践的な訓練ができたと評価した。	B	・生徒も教職員も良い評価をしており、防災教育に力を入れていることが分かる。	・教科横断的な学習の計画実施と併せて、実践的な避難訓練を行う。
	地域貢献の推進	地域における清掃活動やボランティア活動等の貢献活動を通して、生徒の自己肯定感を高めるとともに、働くことに対する意欲を育てていく。	【予想される状況】 地域に出かけての活動経験が少ないため、地域社会との接点が少ない生徒たちであると予測される。 【評価指標】 新型コロナウイルス感染症の状況を確認しながら、地域への貢献活動（清掃、イベント参加）を推進し、地域の人たちとの接点を増やすことができたか。	①地域のコミュニティーと連携しながら、可能な限り地域の清掃活動やボランティア活動を実施していくことで、本校の取組をアピールし、障害者に対する理解・啓発に努める。 ②各作業種において、生徒たちによる主体的な貢献活動を形成していく。	C	①計画的に地域清掃を行った。コロナ禍により、学校単独となった。 ②作業学習が軌道に乗り始めたところであり、生徒からの主体的な企画は難しく、教員が立案した活動計画を実施することとなった。	①計画的に地域清掃を行う。 ②生徒が地域貢献活動に参画することができるよう、作業学習の充実を図りながら、生徒の意見を引き出す環境を整えていく。	B	①久万川清掃は全生徒が参加し、周辺公園清掃は職業の授業で実施した。学校周辺の公園は清掃業者が決まっている場所が多く、清掃可能な公園を確認して実施した。コロナ禍であり、清掃は学校単独となった。 ②公園清掃中に地域の方から感謝の言葉をかけてもらえたこともあり、きれいになった公園を見て、達成感を得た生徒もいた。学園祭には52名の来校者があった。またアルミ缶回収などで地域の協力を得られた。 60%の教職員が地域貢献に取り組んだと評価した。	B	・コロナ禍で制限があったと思うが、地域清掃に取り組んでいることが分かる。 ・地域の人との交流を推進するのであれば、地域のニーズは何か、どんな要望があるのか拾い上げてみてはどうか。 ・学園祭への来校者が多く盛況だった様子が分かった。地域の清掃活動などで達成感を得た生徒がいるのは良いことだと思う。学校提案より高い評価でも良いように感じている。	・地域清掃には継続して取り組む。 ・学園祭は継続して開催する。 ・アルミ缶回収の取組を進めるとともにリサイクル活動（SDGs目標12「つくる責任、つかう責任」）について関心をもてるよう学習する。
働き方改革		ワーク・ライフバランスを考え、健康で活性化された職場づくりに努める。	【予測される状況】 ①学校運営を円滑に進めるために必要な人員が限られているため教員の業務負担感が強くなることが予測される。 ②学習指導業務の重複化による多忙感が生じる可能性がある。 ③グループウェアの機能を効率的に活用することが未経験である。 【評価指標】 ①分掌の統合と業務の役割の平準化を進めることができたか。 ②全ての教師が学習指導案や教材等のデータを共有し、更にそれらを活用しやすいように教材フォルダの整理・充実を図ることができたか。 ③全教職員がグループウェアを積極的に活用できるようになったか。	①分掌業務の平準化を図り、引継ぎを行うため、各分掌に副部長を配置する。 ②「教材フォルダ」内のフォルダやファイル名（日付・内容を記入する等）を統一し、更に活用しやすいものに精選していこと で、全教職員の共有財産化を進め、業務の効率化を図る。 ③グループウェアの活用方法（スケジュール管理、掲示板活用、教室・備品の使用予約等）についての学習会を開催し、全教職員のスキルアップを図る。	B	①限られた教員数であり、新設校のため過去のデータがない中での業務遂行は、個々の負担が大きく、急を要する業務を優先した。 ②教材フォルダを作成したが、活用は進んでいない。少しずつ共有財産化を進めている。 ③グループウェアの活用は進んでいる。少人数のため、効率を重視して教室や備品の使用予約は口頭連絡とした。	①1学期から先送りにしていた業務に取り掛かり、分掌内で共有を図る。 ②教材フォルダ内に作成したデータを保存する。 ③グループウェアの活用を進める。	B	①少人数で業務分担して運営しているため、一人一人の教職員が抱える業務量が多かった。全員が複数の教科の主担当であるとともに、複数の分掌業務を担当するため負担感があった。長時間勤務者はいないが、業務に追われて十分な情報共有をする時間が取りにくいという意見があった。 ②教材フォルダ内に作成したデータを蓄積している。70%の教職員が業務の効率化につながったと評価した。 ③全教職員がグループウェアを活用しており、90%の教職員が、活用により時間短縮につながったと評価した。	B	・教材フォルダに教職員が自作した教材を入れて活用できているということは、授業準備の時間短縮につながり良い取組だと思う。 ・新設校で大変だったと思うが、多くのことに取り組んでいる。	・業務の平準化を進める。 ・多忙感は否めないが、1日の中で気持ちをリフレッシュできるよう休憩をとる。 ・教材フォルダの活用を促進する。